

目黒労協

2022目黒労協夏季闘ニュース

No.22-09 2022年8月1日

発行:目黒地区労働組合協議会/教宣部

【HP】<http://meguro-rokyo.jp/>

メール:union@r05.itscom.net

2022最低賃金、大幅UPかちとろう

7月22日 17:30～ 中目黒駅前町で、目黒労協最賃あげろ！宣伝行動。目黒労協は、組織化＝組合づくり、労働組合宣伝と、最賃引き上げを訴え、月二回は宣伝行動。今日は最賃を中心に。東京土建目黒支部、目黒区職労、JMITU 目黒地域支部、めぐろユニオンなどの仲間など20人の参加で、各自20個のティッシュ入りびらをもち、ほぼまききりました。宣伝は合成音声読み上げ最賃宣伝と最賃音頭の組み合わせ。(めぐろユニオン/通信員)



密室の最低賃金審議に抗議

今年10月からの最低賃金を決める「22年中央最低賃金審議」が6月28日より始まり、非公開の「目安小委員会」で、全国の最低賃金引上げ目安(昨年はA～Dランケー一律28円目安)が7月中に出されます。非公開・密室だが実質的な最賃引き上げ額の決定に、もっとも大きな影響を持つこの目安小委員会に対して、宣伝行動が全労連・全労協など呼びかけで行われました。



7月12日：麻布十番「共用会議所」前行動

7/12 12:30～ 中央最賃審議会目安小委員会、麻布十番、共用会議所前行動。非公開の目安小委員会に、約50人がシュプレヒコール。会議の公開とともに全国一律1500円以上、直ちに1000円以下をなくせと訴えました。全労連事務局次長、全労協議長、郵政ユニオン委員長、生協労連書記次長、下町ユニオン、全労連女性部などが発言、約50名の参加。



7月19日東京労働局前

7/19 東京労働局前。中央最賃審議会目安小委が13:00から開催。それに向け、全労連、春闘共闘ほかの宣伝行動。40名以上が、非公開だが今年の最賃決定にポイントとなる会議にむけ、宣伝、シュプレヒコール、生協労連、国公労連、全労連女性部、下町ユニオン、全労連事務局次長などが訴え。

基地のまち沖縄を訪ねて

土建目黒支部・沖縄プロジェクトに参加

2020年・21年とコロナ過で中止となっていた、土建目黒支部の沖縄プロジェクト(2022 沖縄平和ツアー)が、3年ぶりに7月3日(日)~5日(火)の日程で取り組まれ、目黒労協を代表して参加してきました。自分自身は2018年に参加しており、2度目の沖縄となりました。

台風4号が沖縄地方を直撃したあとの3日に那覇空港に入りました。台風そのものは九州の方に進んでいま



したが、余波は残っており、1日目は雨・風が強く残っています。総勢28名の参加者は5台のレンタカーに分乗(*沖縄観光はレンタカーが主力)し、予定していた日程を変更し沖縄南部にある「沖縄県平和資料館」に。ここで私たち班(6名)は、資料館より少し離れている「ひめゆり平和祈念資料館」に向かいました。ひめゆりの塔は、1945年の沖縄戦で亡くなった沖縄師範学校女子部・沖縄県立第一高等女学校の生徒や教師のための慰霊碑です。戦闘末期に軍より放り出された、多くの民間人・女子学生が犠牲となっ

た。大きな疑問が残ります。その後、北上し普天間基地・嘉手納基地の見学です。普天間基地のオスプレイ、嘉手納基地の広大さが印象に残りました。

2日目は沖縄北部のやんばる(山原)東村(ひがしそん)高江のオスプレイ訓練用のヘリパッドゲート前、監視小屋監視を訪問&交流の後、再び中部の名護に戻り米軍基地キャンプ・シユアブ前での「辺野古埋め立て・新基地建設」反対の、抗議テントを訪問・激励。その後ゲート前の座り込み行動に参加しました。辺野古の海埋め立ての土砂を運び込むダンプの運行を、「1日でも1時間でも1秒でも遅らせる」との意気込みで、みんな参加しています。抗議行動を阻止しているのは、日本の警察と警備会社ガードマンです。この費用は全て日本の負担、私たちの税金です。やっぱり許せない気持ちがより一層強くなりました。また、私たち計28名の参加は、コロナで参加者が減っている中で、皆さんを大いに励ますことができたと思います。



最終の3日目、辺野古新基地建設の現場である浜辺の抗議テント訪問と、船(平和丸)で抗議・見学から始まりまし

た。抗議の座り込みは当日で6,753日と18年以上となっており、関係者のみなさんの頑張りに頭が下がります。船で工事現場に近づくと、ここでも監視しているのは会場保安庁と民間警備会社です。聞くとところによると、新基地建設の費用のうち、警備に係る費用は1日・2千万円を超えとのこと。当然これも私たちの税金です。

沖縄の最賃額は 820 円/時給

沖縄の求人雑誌を見つけ、募集の条件を確認しました。「アルバイト・パート」の条件は、820円~900円が多くあります。東京は1,041円で、この差は本当に大きな地域格差です。全国一律の最賃制度の早期確立が望まれます。(目黒労協/事務局)



子ども達やみんなが安心安全に過ごすために

目黒区職員労働組合保育園支部

保育士の確保、2度の採用試験で確保をすすめる

2022年度4月に向け、新規採用試験合格者数が実態に見合わず折衝を続けた結果、2022年1月前後の時期に2回目の採用試験を開催させることができました。そして4月より新人の組合加入を進め「新人10秒自己紹介」などの動画を撮影、6月23日に2年ぶりの新人歓迎会（2021年採用組2022年採用組、合同開催）を、対面で実施しました。

産育休代替派遣制度は、導入後の10年以上、十分な人材が配置できない為、今年度は4月に全園2名ずつ先取り配置する事となりましたが、実際はほとんど揃わず配置できていない状態です。

2021年度は医療的ケア児の受け入れ時、ケア児1人に対し1人付く派遣看護師が配置できず、区立園の看護師が対応するケースが多く、該当園の看護師が休みの時は、近隣園の看護師が出向き対応してきました。条件整備が整わない中でも受け入れる仕組みとなった現状を訴え、また早急なガイドラインの作成を要求して2年、目黒区としてのガイドラインが、2022年7月にできる段階にきています。



20年近く新規採用がない調理現場では・・・



調理現場では、20年近く新規採用がありません。人員不足・高齢化が進み、個人への負担が大きく、病欠に入る職員が増えています。医療的ケア児の成長に合わせ提供していくミキサー食、様々なアレルギー食・宗教食への対応などによる負担は増える一方です。また業務委託を進めなければ、労働条件が守れない、人材を育成する余力すらなくなってくる現状で、引き続き新規採用を強く訴えていきます。

コロナ禍の中での組合活動、新たな試みも

執行委員会・支部委員会をZoomにて、春闘の折にYouTube配信で学習会を開催し特に60歳以降の働き方を考える情報を提供しました。多くの参加者が画面を通し、一堂に会したかのような連帯感にて学習する事で、宣言下でも運動を止めずに行う事ができてきました。民

営化問題の取り組みについては、保護者を中心に支部と保問協が連携し運動を進め、「公立園の役割」を明記させた民営化計画が、2022年3月に決まりました。今後についても引き続き、「子どもにとっての保育園」「保護者にとっての保育園」の要求をあわせながら、すべての子どもに質の高い保育を実現するために運動を進めていきます。

2022年度で我が保育園支部は50周年を迎えます。コロナ禍を避け、秋頃に周年記念行事開催を予定しています。今後も組合員みんなが団結し、子ども達・保護者、そして組合員が安心安全な保育園で過ごすために、一層充実した運動を進めていきたいと思ひます。（目黒区職労保育園支部/書記長）



元労協執行委員・大西敏雄さん逝く

目黒労協事務局員で、労協執行委員も担っていた、大西敏雄さんが7月10日に逝去されました。68才でした。2020年2月に胃がんの手術をされ、以降も事務局業務をこなしながら治療を続けていましたが、他部位に転移もあり回復はなりませんでした。

大西さんは四国・香川県の高卒卒業後、目黒区にあった七洋電機株式会社に入社しましたが、2年後に会社は倒産・全員解雇に。しかし10名の仲間が新たに労組を結成し、親会社に責任を求め裁判闘争を行い、地域や産別の多くの仲間がこれを支援、2年後に解決金を支払わせることを勝ち取りました。大西さんは、この“10人の侍”のうちの一人でした。

以降も労働組合と関わり続け、「南部労働組合づくり共同センター」目黒事務所の専従など務める傍ら、猛勉強し社会保険労務士の資格を取得、多くの組合員や働く人たちの相談を受けてきました。誰からも信頼される温かな性格で、一度相談を受けると、とことん面倒を見るなど、本当に頼りになる“おいちゃん”でした。7月18日の家族葬には、そんな彼の人柄を偲んで、親しかった方々が最後のお別れを惜しましました、合掌。（2022年/労協・福田清）



☆19年12月 地域の仲間と(○囲みが大西さん)

目黒社法協総会開催

7月22日(土)中目黒住区第5.6会議室にて目黒社会保障推進協議会の総会が開催され、全体17人が参加しました。土方公久事務局長の経過報告、活動方針案では、年間7回の駅頭宣伝行動と原則月に一回の幹事会の開催などの報告がありました。今年度は2年間中止となっている区民集会の再開や社会保障充実を図る為の、所属団体連名による対区統一要求書の提出を求めていく事が承認され、その後加盟9団体からの活動報告、予算、役員及び執行体制を確認し承認されました。休憩を挟み、『全世代型社会保障とは』をテーマに東京社会保障推進協議会から小川均さんを講師に招き学習会を行いました。最初に小川さんは、「全世代型社会保障ではなく、全世代負担型社会保障です」と切り出し、年金受給年齢の引き上げや、後期高齢者の窓口負担の引き上げ等次々と後退していく社会保障制度の説明や歴史など幅広く講義していただき、その、圧倒的な知識量に学習会の中ではありますが、自らの勉強不足を反省しました。私のような、生まれた時から消費税があり、日本が低迷している記憶しかない世代でも、何もしなければ社会保障が悪くなり続ける、運動は必ず必要なのだと再認識する事が出来ました。

(東京土建目黒支部 書記)



平和大行進いよいよゴールへ

7/28 平和大行進。5月に東京を出発した行進の、港区→大田区間に参加してきましたが、同じく5月に北海道礼文島をスタートし、東日本をめぐってきた行進が、7月28日東京に。朝9:00 世田谷区若林公園から10数名で出発。三軒茶屋、三宿、世田谷公園。12:30 中目黒、舟入場公園で、午後の出発集会。めぐろピースウォークは八月休みですが、今日は30人弱に。山手通りから、駒沢通り、恵比寿、渋谷。宮前公園北で次に交代。新宿文京と続く道へまで40名以上を送り出しました。

